

## 稲沢市総合計画審議会〔第8回〕会議録

【日 時】平成29年5月12日（金） 午後1時30分～3時30分

【場 所】稲沢市役所政策審議室

【出席者】稲沢市総合計画審議会委員（敬称略）

出口勝実	稲沢市議会議員
杉山茂和	稲沢市議会議員
川合正剛	稲沢市議会議員
志智 央	稲沢市議会議員
渡辺ちなみ	稲沢市議会議員
朽本敏子	稲沢市議会議員
秀島栄三	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 教授
栗林芳彦	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授
田中基夫	愛知文教女子短期大学 教授
小島洋一	稲沢商工会議所 副会頭
田中浩三	祖父江町商工会 会長
松岡重夫	平和町商工会 会長
大津幸博	愛知西農業協同組合 代表理事専務
青井 博	稲沢市教育委員会 教育長職務代理者
大島宏之	稲沢市医師会 会長
柿沼 晉	稲沢市老人クラブ連合会 会長
鈴木恵理子	稲沢市子ども会連絡協議会 顧問
鈴木 忠	連合愛知尾張南地域協議会稲沢地区連絡会 議長
森岡庸晃	稲沢金融懇話会 幹事
平井直人	愛知県立稲沢高等学校 教諭
後藤清敬	名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 土木部建設課 課長
酒井律治	防災ボランティア稲沢 会長
定行加保里	公 募
坪内留美	公 募
中西 弘	公 募

〈事務局〉

篠田智徳	市長公室長
桜木三喜夫	福祉保健部長
岩間福幸	経済環境部長
高木信治	建設部長
遠藤秀樹	教育部長
足立直樹	市長公室次長兼企画政策課長
吉川修司	企画政策課主幹

荻原幸雄 企画政策課主査  
新見 巧 企画政策課主任

## 【議事次第】

- 1 あいさつ
- 2 協議事項
  - (1) 稲沢市ステージアッププラン（案）について
  - (2) まちづくりのキャッチコピーについて
- 3 その他

### 1 あいさつ

[事務局]

定刻になりましたので、ただいまから第8回稲沢市総合計画審議会を開催させていただきます。

委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、ご出席賜りましてまことにありがとうございます。

本日この会議の進行を務めさせていただきます、市長公室次長兼企画政策課長の足立直樹です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

会議に先立ちまして、市長公室長の篠田からあいさつを申し上げます。

[篠田市長公室長]

改めまして、皆様こんにちは。

本日は、お忙しいところ第8回稲沢市総合計画審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

前回の審議会では、これまでのご意見を踏まえまして、本市が今後10年間に優先的に取り組む重点戦略をお示しさせていただきました。

本日の審議会では、その重点戦略を含む稲沢市ステージアッププラン素案全体の内容と前回から継続審議となっておりますキャッチコピーにつきまして、最終的な審議をお願いしたいと思います。

本日の審議会を終えた後、来週の5月17日から6月9日にかけて、市民の皆様からご意見を募るパブリックコメントを実施いたします。

本日も限られたお時間ではございますが、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

[事務局]

初めに、事務局からご報告いたします。

本日の会議におきましては、山内孝三委員、各務容子委員、永井美妃委員からご欠席する旨を、また、栗林芳彦委員からは講義終了後にご出席する旨のご連絡を受けておりますので、ご

報告いたします。

本日の会議では、各政策分野等につきましてご議論いただくこともございますので、関係部長が出席しております。

また、第6次稲沢市総合計画の策定業務を委託しております三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋の担当者も出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、5月8日から10月31日まで、「さわやかサマースタイルキャンペーン」を実施いたしております。職員はノー上着、ノーネクタイでこの会議に出席しております。

それでは、協議事項に移らせていただきますが、会議の議事進行につきましては、稲沢市総合計画審議会条例第4条第3項の規定に基づきまして、会長が務めることとなっております。

以後の議事の取り回しにつきましては、秀島会長にお願いいたしたいと存じます。

秀島会長、どうぞよろしくお願いいたします。

[会長]

先ほどあいさつにもありましたとおり、本日で稲沢市ステージアッププランの素案を固めたと思います。

それでは、議事を進めてまいります。最初に、協議事項1「稲沢市ステージアッププラン(案)について」事務局から説明願います。

## 2 協議事項

### (1) 稲沢市ステージアッププラン(案)について

= [事務局] =

【稲沢市ステージアッププラン(案)について説明】

【資料1-1、1-2】

[会長]

ただいまの事務局からの説明について、ご質問等あればお願いします。

[委員]

各論の部分ですが、53ページ「主な取組み」の「①駅周辺機能の強化」で、名鉄国府宮駅周辺やJR稲沢駅周辺に「都市機能を誘導し」と書いてあるのですが、このJR稲沢駅周辺は地震時の液状化の危険が高い地域となっており、JR東海道本線に沿って断層が走っているため、都市機能を集中すると大規模な地震の際にまちの機能が混乱するのではないかと懸念があります。

健全なまちづくりのためには、機能を分散する必要があるのではないのでしょうか。特に名鉄国府宮駅周辺では、豪雨時には冠水の被害が起きており、開発すれば一層ひどくなると考えられるため、こちらの解決が重要ではないかと思えます。安心・安全なまちづくりを優先するには、「6-2 防災・治水」にある「④浸水被害対策の推進」を①番に置くべきではないかと思

いますが、いかがでしょうか。

[事務局]

これまで議論はありませんでしたが、「主な取組み」の掲載順については、優先度ではなくランダムに掲載しております。また、地区計画等の手法を使って、名鉄国府宮駅の再整備などで宅地供給を図る場合、調整池などを整備するなど、排水対策について行います。

[委員]

53ページの「③地域コミュニティの維持に向けた定住施策」の「鉄道駅周辺」とは、「②良好な宅地の供給」で記載のある名鉄国府宮駅とJR稲沢駅の周辺は含まれないのでしょうか。

[事務局]

「②良好な宅地の供給」に記載した名鉄国府宮駅とJR稲沢駅周辺においては、両駅を中心に宅地供給を図ることが書いてあります。「③地域コミュニティの維持に向けた定住施策」の「鉄道駅周辺」とは、両駅以外の名鉄本線及び尾西線、JR東海道線の駅という意味合いで書いております。

それが分かりにくいということであれば「名鉄国府宮駅とJR稲沢駅以外の鉄道駅周辺」と修正させていただきたいと思います。

[委員]

先ほど説明いただきました資料1-1で、前回からの修正点は、概ね良いと思っておりますが、前回出された意見で採用されなかった意見についても紹介していただきたいと思います。

[事務局]

本日の資料におきまして、参考資料として「第6次稲沢市総合計画案に対する意見と市の考え方」を提示させていただきました。

審議会におきまして委員の皆様から直接ご発言をいただいた内容、また、審議会後に書面にて委員の皆様からいただいたご意見を、表の左側の欄に示しており、市の考え方、もしくは、修正した場合は「変更前」「変更後」として表の右側の欄に整理をしました。

修正をしなかった内容につきましては、本資料で市の考え方をまとめていますので、よろしくお願いたします。

なお、4月28日の審議会後に意見記入シートをご提出いただいておりますが、参考資料に反映する意見に漏れがありましたので、今この場を借りて考え方を説明させていただきます。

JR稲沢駅周辺の開発の効果はあったと思いますが、マンションが同時期に完成したため、一時的な人口の増加により小学校や保育園の受け皿が不足しているという問題があり、検証が必要ではないかというご意見がありました。こちらにつきましては、そうした課題を踏まえた上で、今後の名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組んでいきたいと考えています。

次に名鉄国府宮駅前に低層の店舗等があり、もっと高度利用を促すよう強調してはどうかというご意見がありました。こちらにつきましては、名鉄国府宮駅周辺の再整備の手法等についてはこれから検討しますので、現時点ではそこまで強く踏み込んで表現できないことをお含み置きいただければと考えております。

次に、住宅供給を計画的に長期間かけて行った方が良いとの意見がありました。こちらにつきましては、先ほど説明しました33ページの「田園居住ゾーン」における土地利用の基本方針や38ページの「地域コミュニティの維持」で補強させていただきました。

次に、基本政策分野であります「10行政経営改革」の中で、重点戦略を推進していくという職員の意思統一、方向性の浸透、意識改革をするといった「組織風土の改革」を記載してはどうかというご意見がありました。こちらにつきましては、今後総合計画を推進していく上では職員への浸透は大前提ですので、記載はしないこととしております。

最後に、西暦と元号が併記されていますが、正式決定ではないとはいえ元号の変更が予定されておりますので、2027年を平成39年と表示することに対する疑義をいただきました。こちらにつきましては、例えば、現在までは「平成」表記で構わないと思いますが、将来の元号にあたる年の記載については検討したいと思っております。

#### [委員]

53ページの「③地域コミュニティの維持に向けた定住施策」に記載があります「鉄道駅周辺」とは、名鉄国府宮駅やJR稲沢駅以外の駅という説明でした。

「鉄道駅周辺や市街化調整区域の既存集落・住宅団地において住宅の建設の誘導を図るとともに、三世同居・隣居・近居の支援等に努めます」とあります。本市は約90%が市街化調整区域であることは、大きな特徴ではありますが、宅地化を図っていくことを考えた場合、どのような方向性で進めていくかが大きな柱になります。

「住宅の建設の誘導を図る」という記述は、当たり前のことが書かれているだけですので、もう少し踏み込んで具体的に市街化調整区域でどのように住宅建設の誘導を図っていくのかを示す必要があると思っておりますが、いかがでしょうか。

#### [事務局]

ご指摘のとおり、本市は市街化調整区域が約9割です。もう少し踏み込んで具体的な取組みを明記したらどうかというご意見ですが、現在、様々な手法等を検討しております。例えば、地区計画制度の活用や条例制定につきましては、38ページの「地域コミュニティの維持」で触れております。

今年度から都市計画マスタープランの策定に取り掛かります。総合計画では骨格部分を示して、もう少し踏み込んだ具体的な方策については、都市計画マスタープランで明記をさせていただきたいと考えております。

まだまだこれから詰めていかなければならない点が多々ございます。10年で終わるのではなく、それ以降の人口減少に対する持続可能な取組みも必要ではないかというご意見も前回いた

できました。できる限り持続可能な取組みを展開してまいりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

[委員]

私も市民ですが、このことに関心を持っている市民は大変多いと思ひます。

市が宅地供給を図りたいことは分かっておりますが、それでも今までなかなか進んでこなかったため、今後10年で具体的にどのように取り組むかに関心があるわけではす。

総合計画で細かい点まで書けないということも、まだ中身が詰め切れていない部分があることも承知してはいますが、今ご説明いただいた内容をもう少し付け加えたらいかかでしょうか。

[事務局]

それでは、もう少し噛み砕いた形で明記させていただきますので、事務局に一任いただきたいと思ひます。総合計画はあくまでも骨格部分であることも踏まえていただき、ご理解いただければと思ひます。

[会長]

もう少し具体的な内容に修正するとのことですので、ご理解いただきたいと思ひます。

他にいかかでしょうか。

[委員]

97ページの「①外国人児童生徒への教育支援」の中に「日本語教育や教育に関する保護者への支援を充実させます」とありますが、これは96ページの「目標」に記載がある「児童生徒及びその保護者」との整合性は問題ないでしょうか。

[事務局]

用語については、統一を図ったつもりでははしましたが、まだ不十分なものが残っているように見受けられます。改めて横断的にチェックさせていただいて、表記の統一を図らせていただきます。

[委員]

97ページの「④誰もが活躍できる社会環境づくり」の中に、いろいろな例を挙げて「男女共同参画に関する各種講座や啓発を実施する」と書いてあるのですが、DV対策は男女共同参画の範疇に入るのでしょうか。

[事務局]

過去にこの審議会でもご意見がありましたが、男女共同参画を議論する中で、女性の社会での活躍が当たり前となった今の時代において「男女共同参画」という言葉が時代に合わないと

いう意見がありました。そのため、「7-2雇用・労働者支援」の分野で女性活躍推進の文脈で書くことも考えましたが、担当課としては、DVやセクハラに関する問題があるため、そうした啓発に絞った内容としました。その後、性的マイノリティの方に関するご意見もありましたので、付け加えさせていただいたところ、結果的に複雑な内容になったと思っております。そのため一度、整理させていただき、ただ今いただいたご意見の趣旨を酌んだ形に修正させていただきます。

[委員]

97ページには「男女共同」という表現がありますが、「共同」をどのように捉えれば良いでしょうか。「共同」は「平等」に含まれると考えて良いでしょうか。

[委員]

私も専門ではありませんが、男女共同参画社会基本法という法律があるため、それに依拠した用語であると理解しています。

「④誰もが活躍できる社会環境づくり」の見出しの中に「誰もが活躍できる」という言葉がありますので、そうした意味では「平等」というよりも、「共同する」というほうが妥当だと思います。

[会長]

次の協議事項に移りたいと思います。「まちづくりのキャッチコピーについて」事務局から説明願います。

## **(2) まちづくりのキャッチコピーについて**

= [事務局] =

**【まちづくりのキャッチコピーについて説明】**

**【資料2、2-1】**

[委員]

前回の資料1の19ページ「2-3 まちづくりのコンセプト」とは重複しないキャッチコピーとなるということは、20ページは削除するということになりますでしょうか。

[事務局]

キャッチコピーには、いろいろな手法、いろいろな考え方があると思います。どんなまちを目指すかのキャッチコピーであれば20ページに記載することで良いのですが、スローガンのようなキャッチコピーとすると、例えば、冒頭や表紙に記載するのも一つの手法だと思います。そうしたこともご議論いただければと思います。

シティプロモーションにつきましては、別の切り口で進めていきたいと思っております、

委員の皆様からいただいたキャッチコピー案なども参考にさせていただきながら、考えていきたいと思っております。

[委員]

シティプロモーションとは別で、総合計画を前に進めるような市のキャッチコピーを考えていくということで理解しました。

ですので、単純に資料2及び2-1の案1から13まででどれにしましょうということではなくて、キャッチコピーにするのか、スローガンにするのか、計画書にどう表現するのも含めてご意見いただければと思います。

[委員]

考え方①と②が示された前回の資料2には、「第6次稲沢市総合計画まちづくりのキャッチコピー候補案」として候補1から7までが出されていましたが、こちらの取り扱いはどうなるのでしょうか。

[事務局]

候補1から7の中で、ご意見をいただきたいと考えております。

[委員]

本日の資料2及び2-1の案1から13で選択するものだと思います。

[事務局]

説明不足で申し訳ございません。事務局側の意向としましては、前回の資料2の候補1から7の中でお選びいただきたいと考えております。

本日の資料2及び2-1は、委員の皆様からいただいた案ではありますが、前回の資料2の考え方①と②に沿ったキャッチコピーというよりは、シティプロモーション向けだと考えております。

[委員]

まちづくりのキャッチコピーと捉えていましたので、総合計画だけでなく市全体を表していく今後10年のキャッチコピーだと思っていました。

考え方①と②に沿ったキャッチコピーは、職員一人一人が意識を変えていく気持ちや覚悟が十分伝わってきて、ぜひ実行していただきたいと思います。しかし、それでは総合計画が行政だけで自己完結してしまうような気がします。行政側のスローガンは作れば良いと思いますが、併せて、市としては今後どうしていくのかのキャッチコピーを併記したほうが良いと思います。

良いまちはどう築かれていくのかを考えると、行政だけでは完成しないと思うのです。行政だけでなく、市民も同じ思いを共有できるかだと思います。市民が行政を見てくれなければ、



職員も頑張れませんし、市民も思いを共有できないと思います。一緒になって進んでいくことを考えますと、単なるスローガンではターゲットが基本的に行政という感じがしますので、併記するキャッチコピーを付け加えたほうが良いのではないのでしょうか。

[委員]

私はキャッチコピーを総合計画全体のスローガンと捉えていました。現行の5次総のように将来都市像のようなイメージで表紙にも掲載される認識でした。

事務局からいろいろと提案もありますが、委員の皆さんが納得しなければいけないと思っています。候補1から7の中で選ぶことになれば、総合計画が行政だけの計画と捉えられかねないと思うのです。本審議会も通じて、皆でまちづくりをどう進めていくかの計画を策定していると思っていますので、委員の皆さんの意見も踏まえて、まちづくりの方向性を確認したいと思っています。

現案では名鉄国府宮駅周辺の再整備が前面に出ていると思いますので、市民が総じて幸せに生活できるような計画にしていきたいと思います。

[会長]

候補1から7は前回の資料2の考え方①、②を基に選んだものですが、本日の資料2及び2-1の案1から13も議論の対象ですか。

[事務局]

対象としていただければと考えております。

[委員]

今回の総合計画が「稲沢市ステージアッププラン」という名称のためか、前回の資料2の候補1「ステージアップ稲沢」が印象に残っており、良いキャッチコピーだと思っています。

「ステージアップ」には、今の舞台、場面から一段階上がるという意味だけかと思っていたのですが、できないことができるようになるとか、自分らしく生きるといった意味もあるそうです。そうした意味も踏まえると「ステージアップ稲沢」はすばらしいキャッチコピーだと思います。

[委員]

キャッチコピーは、いくつも作らないほうが良いと思います。第6次総合計画で取り組む内容が今の時代に合っているので、シティプロモーションを行うのであれば、市としてキャッチコピーを一つ決めて、それをいろいろな方に覚えていただいたほうが良いと思います。後ろ向きな意見かもしれませんが、キャッチコピーはなくても良いように思います。

[委員]

キャッチコピーの位置付けやどう使っていくのかが不明確なので、それぞれのイメージで意見が出ている感じがします。先ほど意見があったように、行政職員向けのキャッチコピーであっても良いと思いますし、市民向けに一緒に変えていこうという使い方をして良いかもしれません。シティプロモーションを意識して使うのであれば、前回の資料2の候補7「名古屋から10分の稲沢 変わります」が市外の方への宣伝効果も含めて良いキャッチコピーだと思います。

今回決めようとしているキャッチコピーがどのような位置付けで、どう使うかが定義できたら自ずと決まってくるのではないかと思います。

[委員]

先ほどの事務局の説明ですと、キャッチコピーが役所の中の掛け声であって、第6次総合計画を推進するために職員を叱咤激励する、鼓舞するためのフレーズではないかと思うのですが、それを審議会の場で議論する必要があるのでしょうか。役所の中のことは役所の中で考えてもらえばいいのであって、我々第三者がここで議論するために貴重な時間を使って集まっているのではないと思うのです。ですから、役所で好きなキャッチコピーを選べば良いと思うのです。

ただし、第6次総合計画を一言で表すのであればどのようなキャッチコピーが相応しいか、市民と意識共有するためにはどんなキャッチコピーが良いかということであれば、議論に参加しますが、役所の中で完結することは役所の中で決めてもらえれば良いと思っております。

[事務局]

ごもつともだと思います。審議会の委員の皆様にお集まりいただきご審議賜っておりますのは、今後10年の本市のまちづくりをどのように進めるか、市民の皆様と行政が一体になって何を進めていくかについてです。先ほど事務局からキャッチコピーを職員対象とする説明をしました。これにつきましてはお詫び申し上げるとともに訂正させていただきたいと思っております。

委員の皆様には、本計画を10年間進めていく上で、市民の皆様と行政が共通した認識を持つためのキャッチコピーをご審議賜りたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

[委員]

現行の第5次総合計画のキャッチコピーを教えていただけるとありがたいです。

[事務局]

第5次総合計画につきましては、キャッチコピーではなく本市の将来都市像として、「自然の恵みと心の豊かさ 人が輝く 文化創造都市」と掲げております。

[会長]

今回決めるキャッチコピーは、前回のフレーズとは位置づけが異なると理解します。

[委員]

キャッチコピーはあまり長く、分かりづらいフレーズではインパクトがないと思います。

公平に決めるというのであれば、市民の議論が必要であると考えます。しかし、事をあまりにも大きくできないので、公平に決めるということは世の中そうはないと思います。方針や考え方を強い意志を持って進めないと、本市のこれからはないと思います。

ですから、委員の皆さんの意見を踏まえてキャッチコピーを決めて、市外の方から「これから稲沢は変わるんだな」と印象を与えるキャッチコピーが望ましいと思います。

簡単に誰もが納得いくキャッチコピーはぱっと挙がりませんが、10年先を見据えて、本市は変わっていくんだとインパクトを与えるキャッチコピーを作っていただくと大変ありがたいと思っております。

[委員]

キャッチコピーに関しましては、ターゲットを明確に決めることがとても大事だと思うのですが、審議会に参加して、私が一番思ったことは、若い人が本市に住んでほしいということです。人口減少社会にどう立ち向かっていくのか、若い人をどのように呼び込んでいくのかというのが、一番のテーマだったと思っております。

キャッチコピーでは、若い人たちをターゲットにすることによって、その人たちが本市をまず知ってもらうきっかけになるのではないかと思います。キャッチコピーの一言で本市がどんなまちなのかを表現できれば良いと思っており、候補7「名古屋から10分の稲沢 変わります」ですと、本市は「名古屋から10分」だと分かります。「父になるなら、流山市。母になるなら、流山市。」も、若い人や子育て世代の人たちが、自分たちへのメッセージだと受け止め、そこからまちを調べて居住を考えてもらえることができます。そうした点で候補7や本日の資料2の案9「くらし一番、稲沢。」は良いのではないのでしょうか。また、案11「第2子できたら稲沢へ」、案12「安心 子育て 稲沢」といった子育てに力を入れていくという明確なメッセージを表記したものが、キャッチコピーとしては適当だと思っております。周りの方に聞いてみると、キャッチコピーからまずまちの存在を知り、それから調べるようです。調べていく中で、防災や治安などの情報を把握し、住むまちを選ぶという流れだと思いますので、明確なメッセージを込めたキャッチコピーが良いと思います。

[委員]

第6次総合計画は誰に見せるのでしょうか。市として何を売りにしていくのでしょうか。市が何を一番訴えていきたいのかが分かりません。若い人向けのキャッチコピーが良いとは思いますが、別の取組みとしてシティプロモーションも行うとのことでした。例えば、他にも違う委員会や計画策定などに合わせて、またキャッチコピーを作るとなれば、それは何に向かってなのか、誰に知らせたいのか、第6次総合計画のキャッチコピーの扱いとの違いが全く分かりません。例えば、「いいな、いいな、稲沢」のように、子どもたちが覚えやすいキャッチコピーで良いのではないのでしょうか。「全国移住ナビ」の動画アクセスランキングで南知多町が全

国1位となりましたが、「ちちちちち・ちた・ちた・みなみちた」というフレーズで名前を覚えさせる楽しいプロモーションビデオがあります。

本市の場合、南知多町のプロモーションビデオのように、とにかく名前を売っていきたいのでしょうか。キャッチコピーの扱いが全く分からないので、きっと皆さんいろいろな意見が出るのだと思います。本当に子育て政策だけで市を売っていくのであれば、それに関連付けたキャッチコピーを作ったほうが良いと思います。あれもこれもキャッチコピーを作れば良いというものではない気がします。

[委員]

第6次総合計画では、2つの部会に分かれて、いろいろな分野を議論してきた経緯があり、総合的なキャッチコピーとなりますと、両部会での意義を併せ持ち、10年先をどうするかといったキャッチコピーになると思います。

いくつか候補案が挙がっていますが、大きく分けると候補2「変革 稲沢」や候補3「CHANGE 稲沢」は、総合的に前に推し進めるイメージのキャッチコピーです。候補7「名古屋から10分の稲沢 変わります」、案11「第2子できたら稲沢へ」、案12「安心 子育て 稲沢」は、ある1つの分野に特化したキャッチコピーです。大きく分けると2つのキャッチコピーに分けられると思います。

委員の方々の一人一人のご意見を聞いても良いですし、多数決で決めても良いですが、6次総の一番の目的は何か、何を重点にするかによってキャッチコピーも決まってくると思います。

[委員]

ただ今の意見に関連してですが、今回の総合計画全体を象徴的に表すキャッチコピーにする考え方もありますが、資料1-1の35ページにイメージ図でまとめた重点戦略を象徴的に表すキャッチコピーにする考え方もあるのではないのでしょうか。

中段にコンセプトでもある「名古屋圏における本市の存在感向上」とあります。そして、他市との差別化を図り、本市らしさを大事にしていこうという議論があったと思います。全体的なことを網羅するキャッチコピーだと「稲沢市」を他市町村に置き換えても使えてしまいます。重点戦略を表したキャッチコピーでも良いのではないかと思います。意見を述べさせていただきました。

[会長]

それでは、キャッチコピーの候補案を3グループに分けてみたいと思います。

前回の資料2の候補1から6までと、本日の資料2の案1から5までが「稲沢市」を他市町村に置き換えても通用するタイプ。前回の資料2の候補7と本日の資料2の案6が本市ならではのタイプ。その他は特定のメッセージを強く表現したタイプ。これら3グループからどれにするかを決めたいと思います。いきなり多数決ではなくて、あるグループを支持するご意見があれば、ご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

[委員]

前回の資料2の19ページ「まちづくりのコンセプト」にあります「市民が、将来もずっと暮らし続けるまち」「名古屋で働く人が、暮らしの場として憧れるまち」の細目が下段に5項目掲載されています。この部分をアピールできるキャッチコピーであるべきではないでしょうか。

住みやすさをアピールしたいのであれば、発信するターゲットは市民と市外の若い世代だと想定しますが、コンセプトとキャッチコピーのターゲットについては、事務局から明確にしていきたいと思います。

[会長]

コンセプトについてはだいぶ浸透してきています。しかし、誰をターゲットに発信するかは、いろいろ考えがあると思いますので、ご意見がありましたら、お伺いしたいと思います。

ターゲットについては、必ずしも事務局が決めなくてはいけないものではないと思います。

[委員]

私たちのまちづくりのコンセプトは決定しています。あくまでも若い世代に住んでもらおうと思うのであれば、ターゲットは市内の若い世代と市外から転入してもらう若い世代しかないと思っています。

[委員]

市外から見た場合、本市はこれから何に取り組んでいくのでしょうか、それにはどのようなメリットがあるのでしょうか。例えば、子育て支援が充実している市であれば、少子化問題の解消にもつながっていき、安心して子どもが産める魅力あるまちになります。

いくつか箇条書きでキャッチコピーの候補案が紹介されていますが、人口減少や少子化対策などポイントをどこに置くかではないでしょうか。いわゆる形式的なキャッチコピーも悪くはないですが、思い切ったインパクトのあるキャッチコピーにした方が良いと思います。

例えば、「安心 子育て 稲沢」「くらし一番、稲沢。」とするのであれば、どのような意味で安心なのか、どのような点で本市は暮らしが一番なのか、他市町村と比べての利点を示す必要があると思います。

キャッチコピーだけで本市の方針が示されているくらいインパクトがあっても良いと考えています。キャッチコピーの位置付けを明確にさせていただくと、皆さんとまとまった議論ができ、インパクトあるキャッチコピーが考えられるかもしれません。また、市外の方からご意見を聞くことができれば、もっと良くなるのではないかと思います。

[委員]

私は県外から夫の転勤で本市に住むことになったのですが、当時の気持ちから考えますと、「名古屋から10分の稲沢 変わります」のキャッチコピーが胸に響きます。どんなまちなのか知りたいという気持ちが湧くのではないのでしょうか。本市に20年以上住んでいて、ずっと変わ

らなかったという思いがありますので、とても本市の特徴を表しており、他市町村と置き換えができないキャッチコピーだと思います。そして、取組みを進めようとしている内容と一致しており、本市を最大限生かしていくキャッチコピーだと感じたため、私としては推したいと思いました。

[委員]

キャッチコピーについてどのような使い方をするのがあやふやなまま議論が進んでおり、皆様のご意見をお聞きしていますと、プロモーションメッセージを決めようとしているのではないかという気がします。プロモーションメッセージというのは、ターゲットとなる人に直接働きかけて、アクションを起こしてもらうことです。例えば、本市に移住してもらう目的で発信するメッセージを決めるかのような議論している気がするのです。

本来この場で決めたかったことは、あくまでも役所の中で行政側が新しい総合計画をきちんと理解して意識し、それを行動に反映させるためのキャッチコピーを想定していたのだらうと思います。先ほど私が意見したのは、それを市民と共有するためには何か良いキャッチコピーがあるのでしょうかという主旨で発言させていただきました。

ところが、それから議論が拡散して、どのようなキャッチコピーにすると人が集まってくれるだろうか、本市に移住してくれるだろうかといったように論点がずれてきてしまっているのではないかと思うのです。

キャッチコピーをどんな使い方をするのかについてコンセンサスを得ておかないと、最終的に好みで選ばれてしまうことになってしまいますので、ここははっきりさせておいたほうが良いと思います。事務局からキャッチコピーをどう使うのかを改めてご説明いただきたいと思います。

直接、部外者に対して発信するのでしょうか、それとも、あくまで内部もしくは市民向けで、総合計画を説明するために使うのでしょうか。それがはっきりすれば、もっと議論がまとまると思います。

[会長]

ありがとうございます。今の時点で改めて事務局の考えを伺います。

[事務局]

先ほどの説明では総合計画が職員だけのものというような誤解を与えてしまったかもしれません。

職員は一つの要素でしかなく、市民も含めてまちづくりをどう進め、本市がどう変わっていくかを示すような計画が総合計画ですので、それを表現するキャッチコピーであるべきだと思います。

先ほどご意見をいただきましたとおり、総合計画はターゲットを決めて、特定の人に対してメッセージを送り、アクションを起こさせるようなものではありませんので、マーケティング

やプロモーションのメッセージの類とは異なると思っています。

本市がどのように変わっていきたいのかを職員が意識することもそうですし、市民の方が「こういうふうに稲沢は変わっていくんだね」というのを認識していただくための一つが総合計画であると思っています。そうした計画に見合ったキャッチコピーがあるのだろうかと思ひまして、第一に本市がどう変わっていくのかを表現するキャッチコピーを考えております。

その次に、市の取組みを市内の方だけでなく市外の方にもアピールしていくことは必要だと思いますが、計画が誰のものかといえば、市民であると思っています。プロモーションの視点でのキャッチコピーとなりますと、ターゲットを絞り、シティプロモーション戦略が必要になってくると思います。今回は行政運営全般の総合計画ですので、あまり特定の政策分野にフォーカスを絞ったキャッチコピーとすることには疑問があります。どのようなまちにするかという点については既に「まちづくりのコンセプト」がありますので、そうしたまちにしていきたいという意思表示や姿勢を表現したいと考えています。

[会長]

先ほどは3つのグループに分けましたが、「必要ない」という意見もあると思います。ですので、4つの選択肢から挙手をお願いします。意見が割れましたら、ディスカッションをさらに続けたいと思います。

では、挙手をお願いします。

(挙手)

候補1から候補6までと、案1から案5まで：7人

候補7と案6：7人

その他：7人

必要ない：2人

意見が割れましたが、どなたかご意見ありますか。

[委員]

私は事務局の説明がとても心に刺さっております。なぜなら、本市がこれから10年変わっていかないと後がないことを、最も理解していると思ったからです。一般市民の目線で周りの方々を見ていますと、これから10年で本市が変わっていかなくてはいけないと感じている方がどれくらいいるのかと考えると、ほとんどの方はきっと、もっと悠長に構えていると思うのです。

事務局は、このキャッチコピーをある意味、危機感としての認識も含めて、市民の方々と共有してこれからの10年を進めていきたいのだと感じました。

そうであればキャッチコピーにしろ、スローガンにしろ、ポジティブなフレーズのほうが出てきやすいと思うのですが、危機感を含めて訴えていきたいということであれば、それをメッ

セージとして伝える必要があるのではないのでしょうか。そう考えますと、このキャッチコピーを伝えたい対象の方も、もう少し絞られるのではないかと思います。

[委員]

計画を立てたら、誰が実行するのかといえば、職員と市民だと思えます。前回の資料2の候補1「ステージアップ稲沢」に「考え方を市民や職員が認識するためのキャッチコピー」と説明があります。ステージアップを図るために総合計画を策定し、市民も職員も認識を共有するという意味で最も良いキャッチコピーではないかと思いました。

[委員]

「稲沢市が目指すまち」である「市民が、将来もずっと暮らし続けるまち」と「名古屋で働く人が、暮らしの場として憧れるまち」の両方を踏まえたキャッチコピーが良いと思っていますが、候補7「名古屋から10分の稲沢 変わります」は、外部から本市に目を向けてもらうようなキャッチコピーとの印象を受けます。また、祖父江地区や平和地区に住んでいる人からすると、名古屋から10分は違和感があります。

資料2-1の案11「第2子できたら稲沢へ」も外部から本市へ目を向けてもらうためのキャッチコピーという印象であり、第2子でなくても「子どもできたら稲沢へ」でも良いと思えます。それから、案12「安心 子育て 稲沢」は、どちらかと言えば市民対象の内向きのキャッチコピーで、案11と12を合わせて「安心子育て 子どもできたら稲沢へ」とすれば、両方が網羅されたキャッチコピーになると思います。

私の印象としては10年間は短いと思うのです。名鉄国府宮駅周辺の再整備についても10年でどれくらい進むのだろうかと思っています。実現できる内容がはっきりと示せるキャッチコピーが良いのではないかと思います。

[委員]

どのようなまちづくりを進めていくかが総合計画だと思っていますが、その中心は市民だと思うのです。人口減少は全国的な問題であり、人口を増やさないと本市にも様々な影響があるとは言いますが、今住んでいる人たちが本当に幸せに暮らしていける計画が必要だと思います。今後、現案の計画を進めていくとなると、どうしてもハード整備や開発が優先される気がしております。私は住民の暮らしを優先したいとの思いから、資料2-1の案13「憲法を生かす稲沢」を含むグループに手を挙げました。

[委員]

その人の理解や思いがあるため、意見の統一を図ることは難しいと思います。他市町村の人に本市をPRしたいと思えば「名古屋から10分」というフレーズを使いたいと思いますし、一つの政策に特化するのであれば、例えば、子育てのしやすさをPRするキャッチコピーを選ぶと思います。ですので、なかなか一つを選択することは難しいと思います。



[会長]

事務局に質問ですが、審議を継続することは可能ですか。

[事務局]

延長するということですか。それとも、別途、日程を設けたいということでしょうか。

[委員]

皆さん意思表示をして、事務局の説明をお聞きして、それから再度意思表示しています。

3グループが同数で割れているのであれば、例えば、会長に一任するのはどうでしょうか。そうしないと、何回繰り返しても自己主張だけになります。そうした方向で決めてはいかがでしょうか。

[会長]

大事な内容ですので、努めて委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思いました。

もし、よろしければ、事務局と副会長と3者で協議をして、キャッチコピーを一つ決めておき、パブリックコメントで意見を募ったほうが良いと思います。それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、そのように進めさせていただきます。また、パブリックコメント等でご意見いただければと思います。

それでは、「その他」として事務局から説明願います。

### 3 その他

[事務局]

本日、机の上に前々回の部会の議事録が入った封筒を準備させていただきました。ホームページ上で公表を行う前に、委員の皆様で内容を一度ご確認いただきまして、修正等あればご連絡いただきたいと思います。

本日のご意見を踏まえまして、「ビジョン2027」「プラン2027」の案を取りまとめまして、5月17日から6月9日の間、市民の皆様から幅広く意見を募るためのパブリックコメントを実施します。パブリックコメントのご意見に対する市の考え方や修正案につきましては、6月30日の午後1時半から市役所大会議室にて開催予定の本審議会でご提示させていただいた上で、答申をいただく予定です。正式な開催案内につきましては、後日発送いたしますので、よろしく願いいたします。

[会長]

ただいまの事務局からのお知らせについて、ご意見ありましたらお願いいたします。

[委員]

パブリックコメントを求める際には、簡単に理解しやすい概要版と細かく見てもらう本編に分けるといった工夫をしないと一般の市民にとってコメントしづらいと思います。幅広くいろいろな方が意見を提出できる方法を考えていただければありがたいと思います。

[会長]

近年、パブリックコメントは、どこの自治体でも反応が悪いです。今の意見について事務局でどのように考えていますか。

[事務局]

パブリックコメントで多くの方からご意見をいただこうと思いますと、本編のみを提示するだけでは確かに一般の市民の方にはハードルが高いと思いますので、少なくとも何かしらの説明を加える等の工夫が必要と考えております。その点につきましては、検討いたしますのでよろしく願いいたします。

[会長]

準備が大変だとは思いますが、よろしく願います。

以上をもちまして、本日の議事を終了したいと思います。皆様には活発にご発言いただきましてありがとうございました。

では、事務局にお返しします。

[事務局]

長時間にわたり慎重審議を賜りまして誠にありがとうございました。

会議を閉じるに当たりまして、市長公室長の篠田からあいさつを申し上げます。

[篠田市長公室長]

本日も長時間にわたりご審議賜りましてありがとうございました。

計画の本文につきましては、本日のご意見も踏まえまして、修正や整理をさせていただくとともに、キャッチコピーにつきましては、会長、副会長と事務局で協議して、パブコメ案の中で紹介できればと思っております。

次回は、6月30日に、パブコメでいただいた意見と市の考え方等もお示しするとともに、答申をいただく予定をしております。

6月30日までには時間があり、修正は可能ですので、改めて今回の資料等をご覧いただいて、ご意見があるようでしたら、ご連絡いただければと思います。

本日はお忙しいところ、ご出席賜りましてありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。

[事務局]

以上をもちまして、第8回稲沢市総合計画審議会を閉じさせていただきます。  
会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございました。